

安足地区学力向上に向けた今後の取組

～調査問題と調査結果の効果的な活用に向けて～

学力調査（全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査）には、問題ごとに学習指導の改善・充実に向けたメッセージがあります。調査結果は、児童生徒の課題の洗い出しに使われることが多いと思いますが、活用の仕方次第では「学校の強み」や、「小中連携のポイント」等の発見にも大いに役立ちます。ここでは代表的な活用方法を3つ御紹介いたします。学力調査の活用方法をもう一度見直してみませんか？

【活用1】各教科の結果をできるだけ細かく検証する

★ 各教科の設問ごとに、全国や県の結果と比較して、よくできている内容と落ち込みが見られる内容を洗い出します。その後よくできている内容は、日々取り組んでいる学習の何が効果的だったか、落ち込んでいる内容はどんな手立てが講じられそうか、という観点で検証します。

〔例〕国語の「書くこと」の内容が県平均よりも良かった。

複数の条件を考慮して記述する問題に強い傾向が見られた。

→ 朝の会で、条件を与えて短文を書く練習をしている。→ 他学年にも勧めよう。

数学の「図形」の内容に落ち込みが見られた。

→ 特に扇形の問題に落ち込みがある。→ 角度を分数で表せない生徒が多い。

→ 角度を分数で表す部分を復習しよう。→ 会議で話題にしてみよう。



誤答分析も効果的です

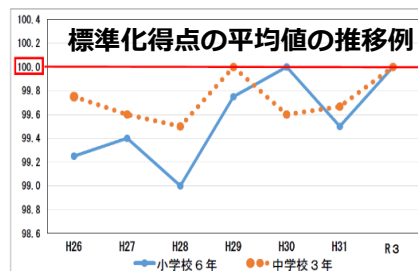
地域の課題を共有することも有効な手立てです。取組のうまくいっている地域の中には、3月に各校の学習の傾向を小中で共有し、手立てを引き継いでいる学校があるそうです。

【活用2】調査結果を蓄積し学校全体の取組を確認するデータとして生かす

★ 1年単位での検証後は、数値を経年で見て検証します。

毎年調査を受ける児童生徒が変わるので、その年の結果だけでは、学校全体の方向性は、見えにくいものです。

毎年の数値を蓄積し、指導の方向性の分かるデータとして使用することは非常に効果的です。



毎年調査を受ける児童生徒が違うため、数年ではグラフが上下しますが、積み重ねていくと右肩上がりか、右肩下がりが見えてきます。また、同じ児童生徒の結果を、いくつかの調査を並べてグラフにしてみることも効果的です。

【活用3】 調査問題の出題の意図を理解し全校体制で授業改善に生かす

★ 学力調査では、新しい時代に必要とされている資質・能力について出題されています。言い換えると、**学習指導要領改訂を反映した内容**が出題されているということです。そのため、**出題の傾向を授業改善に生かすことは、とても重要なこと**といえます。

調査問題は、授業の一場面を切り取って設問が作成されている場合があります。例えば、生徒同士が話し合っていたり、児童がスピーチ原稿を作成していたりする様子が取り上げられた設問です。



その問題に登場する、**授業の展開や発問の仕方**を、自分の授業の参考にすることができます。記述式の正答の条件は、**評価規準として活用**することもできますし、**誤答は起こりうる児童生徒の反応**と理解することもできます。

それ以外にも、**直接調査問題を授業に取り入れる**ことも可能です。授業の**学習課題**として活用したり、振り返りの場面で、**補充問題**として、使用したりすることもできます。

本年度の問題や出題意図、結果から見る全国的な傾向、過去の調査問題等は国立教育政策研究所のWebサイトから見るすることができます。

国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

課題のある領域や内容は、下学年からのつまずきがある場合もあります。系統性を意識して、全学年を見通した授業を展開していく必要があります。調査問題に全職員で目を通し、全校体制で取り組むとより効果的です。

※ こちらの資料は安足教育事務所のホームページよりダウンロードできます。